

“天高し住宅調査の時となり”

天高肥馬の候、10月1日は5年ごとに行なわれる住宅統計調査の実施日です。私達が社会生活を営むための根拠として住宅は不可欠のものであります。地域の発展によつて新しい住宅がどんどんと建てられています。また住宅に困っている人が相当あります。この調査は、地域ごとに住宅の規模や構造、設備、宅地あるいはその住宅に住んでいる世帯の居住の状況が、どのように変わつてきているかといったようなことを、抽出された調査区ごとに綿密に調べてこれを明らかにして、これからの住宅関係のいろいろな計画や、施策の基礎資料となる統計を作ることを目的として行なわれるのです。

“調査区のすべての住宅をとらえ”

この調査で対象となる住宅は、調査される調査区のすべての住宅で、空家も建築中のものも調査の対象となります。また住宅以外の建物、たとえば宿泊舎、旅館、工場や会社の事務所などでも、そこに人が住んでいれば調査されることになります。住宅調査ではあるけれど、その住宅に同居している世帯や、住宅以外の建物に住んでいる世帯も調査されます。

“住宅の意味を先分に理解”

住宅とは何んぞということになりますが、この調査で定義している住宅とは、ふつう私達の住んでいる一戸建の住宅や、アパートのように完全に区画された建物の一部であつて、一つの世帯が独立して家庭生活を営むことができるように建築、改造されたものをいいます。

ここで一つの世帯が独立して家庭生活を営むことができるために、この調査では設備として四つの要件をあげています。それは、一つ以上の居住宅があること、二は専用の炊事用排水設備があること。三として専用の便所があること、四は専用の出入口があることとなつています。二と三については共用でも他の世帯の居住部分を通らずに、いつでも使用できるという条件があります。この調査では以上のような設備のあるものを住宅として調査するわけです。

“住宅と世帯をむすび調査する”

この調査は、住宅に住む世帯を単位として調査されるわけですが、ここで世帯とは、ふつうの家庭のように住居と生計をともしていることが原則ですが、ひとり

1住宅に住んでいる普通の世帯も入るわけです。また間借りをしてひとり暮らししているような人は、その間借り人だけをまとめて一つの世帯とし、寄宿舎、下宿屋などに集まつて住んでいるような人は、そこに住んでいる単身者をまとめて一つの世帯としますが、下宿人や同居人が、その家族といつしよにいればそれぞれの家族ごとに一つの同居世帯となるわけです。また住込の家事使用人は、雇主の世帯に入れるとか、営業使用人は、その人達だけをまとめて一つの同居世帯にするといった調査上の約束がありますので、手引等を活用して誤りないように調査することが大切です。

“準備調査洩らさず対象をはあく”

大ていの統計調査には、その対象を適格につかんで、洩れや重複を除くために調査実施前に準備調査が行なわれます。住宅調査の準備調査は、9月24日から30日までに行なわれました。この準備調査では、調査区ははつきりと確認するために調査区地図によつて境界を確認して、その調査区内にある調査対象、すなわち住宅や建物を確認しながら、準備調査名簿に所定の事項を記入していきます。そして調査票を配付して記入方を依頼するわけです。準備調査は、調査の精度を決する根本的な調査であつて住宅や世帯の意味をよく理解して脱洩や、重複がないように確実に行なわなければなりません。

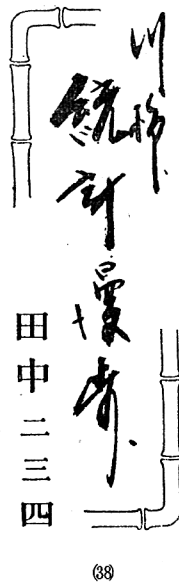
“正確な記入で施策のよい設計”

すべての統計調査にいえることは、正確と迅速な処理です。調査にはそれぞれその調査特有の調査の仕方や約束ごとがあるわけです。それらのことが調査対象者によく徹底し理解されて正しく記入されることが良い調査となり正しい統計ができるわけですから、第一線の調査員の責務はまことに重大であつて、その成否を決する重要な鍵といえるわけでしょう。

“虫の声ただいま調査点検中”

調査員のしごとは、9月24日からの準備調査から10月1日の実査、そして調査票をとりまとめ、内容を点検して、関係書類等を市町村役場に提出して終ります。時は秋、日常の仕事に忘殺され、調査票の点検は夜が多いようです。虫しぐれを聞きながら間違いのない正しい調査票に仕上げる調査員の方々の仕事は大変なわけです。

× × ×



(38)